清瀬市郷土博物館協議会　令和３年度第１回議事録

日　時　令和３年１１月１９日（金）午前１０時～午前１１時３０分
場　所　清瀬市役所　会議室

出席者　委　員　岩本重雄、岡田耕輔、小俣洋子、森本昇二、簗瀬正子、
　　山我正明（敬称略）
　　事務局　今村企画部長、木原館長、古川係長（学芸員）、
　　中野主事（学芸員）、鈴木主事、
　　笠原会計年度職員（学芸員）

会議の公開・非公開　非公開
配布資料　資料１　令和２年度事業報告
　　資料２　令和３年度事業報告・事業予定
　　資料３　令和４年度事業計画（案）
　　特別展「澄川喜一展」図録
　　令和元年度　年報
　　森田家のボロ（襤褸）資料調査報告書

議　事　　１　開会
　　２　委嘱状伝達
　　３　企画部長挨拶
　　４　正副会長選出
　　５　議題
　　（１）令和２年度事業報告について
　　（２）令和３年度事業執行状況報告及び予定について
　　（３）令和４年度事業計画（案）について
　　６　その他
　　７　閉会

【議事要旨】

1　開会

本協議会の司会進行役は正副会長が決定するまで木原館長が務める。

事務局により配布資料と本日の会議の出席者数の確認があり、本日の会議出席者は、条例第５条第５項の定足数である過半数を満たしており、本会は成立している旨が伝えられた。

2　委嘱状伝達

退任した委員を紹介しつつ、机上での伝達とした。

3　企画部長挨拶

（企画部長）郷土博物館協議会委員の皆様には、日頃より博物館事業にご支援ご尽力を賜り御礼申し上げる。

本年４月に市の組織改正があり、郷土博物館は教育委員会の教育部から市長部局の企画部に移管となった。

平成 31 年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正が行われるまで、文化財保護行政は教育委員会が所管すると決められていた。市長部局にあると埋蔵文化財がある場所に開発行為がある際、市長が開発を優先するのではないかという恐れがあるということで、文化財保護の観点から教育委員会が担うべきというのを聞いたことがある。現在は時代が変わり、文化財を保護するためには、街づくり全体を考え、産業・観光を含めた上で多角的に行っていかないと保護できないということが課題として挙げられている中で、文化財保護行政は市長の所管でも可能となった。

清瀬市では、渋谷市長が「結核医療も清瀬の尊い歴史、世界遺産に匹敵する」と様々な場所で PR をしている。これまでマイナスのイメージしかなかった結核医療をプラスに変えて清瀬市の一つの象徴として PR していけるという思いがある。そういったことも考え、市長部局の中で博物館を活用したほうが良いのではないかということから市長部局に移管となった。なぜ、企画部なのかという事由としては、企画部で担っている市史編さん事業と郷土博物館は、一層連携を強化する必要があったためだ。

郷土博物館を今後どうしていくかということについては、様々な方か

ら意見を伺ってきた。その上で、改めて開館した当時を振り返ってみると、基本構想が４つあげられていた。その中には、博物館の任務である資料の収集・調査研究はもちろんのこと、それぞれの項目に「市民の共有財産として後世に伝える、調査研究の結果は市民の一層の理解と文化向上に役立てる、学校行事と児童生徒の学習保管の役割を担う、市民に親しまれる憩いの場とする」ということが書かれている。もっと開かれた博物館にしていく必要があると感じた。当時の資料を見ると、博物館開館時に熱意を持たれていた星野前市長が『よく「博物館行き」という言葉があるけれども、清瀬の郷土博物館はそういう場所ではない。古めいたものをしまっておく場所ではない。博物館でいろんな体験をして、市民の皆さんにもっと清瀬を知ってもらい、好きになってもらえるような場所にする』という思いがあったとの記載があった。まさにその通りだと私も思う。原点に返って郷土博物館をそのような施設にしていくと改めて感じた。

企画部には、秘書広報課もあり、広報やシティプロモーションに力を入れている。広報は外にお知らせしていく役割だが、その拠点が郷土博物館でなくてはならない。博物館に行けば行政がわかり、歴史や文化に触れられる場所であるべきである。博物館が市全体のシティプロモーションの核としていきたい。

４月当初に学芸員・職員と博物館開館時の基本構想や理念を共有し、方向性の共通認識をもって事業に取り組んでもらっている。その結果、それぞれの事業への来場者も増加しており、好評な意見を数多く頂戴している。今後、多くの方が博物館を訪れ、清瀬市の文化や歴史に触れ、清瀬をもっと好きになり、郷土愛を深めていただきたい。そのためにも、皆さんに引き続き、ご支援・ご協力をお願いしたいと思っている。

４　正副会長選出

委員の互選により、引き続き会長に岡田委員が、副会長に簗瀬委員が選出された。両委員より就任の挨拶。これより議事進行は岡田会長により執り行われた。

５　議題（協議経過等）

（１）令和２年度事業報告について

（２）令和３年度事業執行状況及び予定について

事務局より上記について資料に基づき報告。

（事務局）　令和２年度事業報告の前半は昨年度開催の協議会で説明したため詳細は割愛。年間の実績については資料に記載しているので参照いただきたい。特別展は年度内に３本開催し、特別展関連事業は概ね定員を超える参加者がいて好評だった。４月から５月にかけての臨時休館の影響と感染症対策の関係で事業の中止や内容の変更を行った一年となった。

たくさんの方が集まり密になるような事業、コンサートやもちつき・カルタ大会は中止せざるを得なかった。なにができるのか、どういう風にすれば来館者の方に安全に楽しんでもらえるかを考えながらの一年だった。傾向としては、教育普及の講座関係がリピーターも見られ、参加者も多く定着化していると感じた。その他としては収蔵品管理のシステムをクラウド化して、安全性・メンテナンス上の利便性を図った。これによって将来的に収蔵資料の一部をネットに公開することが可能になったので、今年度も引き続き作業を進めていきたい。また映像展示室の機器も更新し、DVD 上映が可能になり、スライドを使った講演も可能になった。ギャラリー改修工事実施設計も行い、現在工事中である。今年度の事業報告とこれからの予定について説明する。常設展示はギャラリーの改修工事と合わせて、民俗展示室内にうちおりの常設展示のコーナーを作成中。民俗室の展示替えも行うので常設展示については工事が終わり次第、出来るだけ早めに開催していきたい。オープンの暁には講演会などの事業を実施予定している。時期が決まり次第、市報等でお知らせをする。国の重要有形民俗文化財であるうちおりについては常設展示で年間を通してご覧いただけるが、国の保護の観点から、１つの展示期間は 60 日間のため、２か月に１回は展示替えがある。

特別展は３本開催した。コロナ渦での開催であったがどの特別展も多くの方にご来館いただき、満足度の高いものだったとアンケート結果も出ている。その中でも「走れ！清瀬鉄道物語」ではこちらの予想以上のお客様にご来館いただき、会期中に図録が完売するという状況になった。図録は再販する手筈をとっている。３年後が清瀬駅開業 100 周年なのでまたこういった展示をやりたいと思っている。特別展関連事業も概ね定員ほどの参加をいただき好評だった。

教育普及事業としては、食の事業がコロナウイルス感染症対策の関係で、人数の制限や、やり方を変えるなどして開催できるものは開催して

いる。もちつきなどは今年度も中止にした。子ども向け事業も宿泊体験は中止し、昔のくらし体験への内容変更などを行った。

その他としては、今年度から本格的に SNS を活用し、動画公開や情報発信を行っている。コロナ対策の補助金も活用しており、感染症対策として消毒液の購入、検温器、空気清浄機の設置をした。配信機器の購入も行い、講演会の映像を SNS 配信や定員以上だった方の別場所での同時視聴を可能にした。

（３）令和４年度事業計画（案）について

（事務局）　実際は予算の内示が出てから具体的に組み立てていくが、今の段階での計画を説明する。常設展示については、民俗展示室は引き続き、うちおり展示の入れ替えを行う。歴史展示室は、当面の間は今の展示を継続。今まで民俗展示室にあった清瀬の歴史スペースが狭くなるため、歴史展示室のリニューアルも検討していく。令和４年度にリニューアル内容を検討し、令和５年度に工事を検討していきたい。

特別展は例年３本だが、資料整理・調査研究の時間を確保し、内容の一層の充実の為、２本の開催とした。１つは「古代武蔵と清瀬展」。これまで古代についての特集展示をしたことがないため、古代に焦点を当てて清瀬の歴史を見直したいという趣旨の展示である。もう１つは「谷口ジロー展」。清瀬に長く住んでいた漫画家・谷口ジロー氏の作品に清瀬の風景と思われるものが描かれているので、谷口氏の画業を振り返り、清瀬ゆかりの芸術文化に関心を持ってもらう趣旨の展示である。例年通りの企画展は美術家展・はたおり伝承の会作品展を継続して行う。その他の展示として、多摩北部５市美術家展の当番市が来年度で、圏域５市の美術家による絵画展を冬に清瀬で行う予定となっている。

教育普及事業、子ども向け事業については、現在の内容を継続しながら、単発で新規企画を行う予定である。子どもたちが博物館に触れる機会が増えるように企画を練っていきたい。博学連携については、見学対応に加えて、出前授業、web 上での出前授業配信など、教育委員会と連携調整しながら進めていきたい。教育普及事業の実施時期については、例年にこだわらずに他の事業と調整しながら決めていく。

今後の方向性としては、シティプロモーションの拠点としての視点をもって事業を展開していきたい。

具体的には、特別展の開催時期に多くのみなさまへ周知を図るため、清瀬駅北口ペデストリアンデッキへの横断幕や郷土博物館の正面に視認性を高める看板を設置するといったハード面での工夫を行う。また、清瀬の歴史、文化など地域に根差した展示や講座などソフト面の充実を図り、市民が清瀬を知ることで、より一層好きになってもらえるような事業を展開していく。

市民との協働については、協議会委員や市民ボランティアの方に事業の一部を協力いただくなど、一緒に活動できる機会の創出を図っていく。

（館　長）　今後の博物館の方向性は、開館した時の理念に立ち返る。課題としては清瀬の歴史を知らない市民の方が多くいるので、清瀬の歴史・文化をもっと知り、清瀬に愛着・誇りを持っていただけるのが目標。その目標に向かうための事業を展開していきたい。また、収集した資料の整理、調査を行い、皆様にお示しできる体制をとっていく。学校との連携についても web 配信での講座や、昔のくらしの道具の貸出キットを作成するなどの方法を取り、教育委員会との連携を強化していく。

特別展は、今までの開催期間が短かったので、もっと長くして多くの方に来ていただき、学芸員による来館者への解説時間も多く取りたい。他にも、市内に出かけて古い蔵の調査や、オーラルヒストリーとして残していくため、年配の方に当時の清瀬について聞きまわりをしていきたい。市民との協働としては、協力していただける方に向けた事前学習会の開催を検討し、市民の方に関わっていただける博物館にしていきたい。

6　その他

その他についての質問を問う。

（会　長）　前年度までに提案してきた市民学芸員について、どのように継続していくか。

（館　長）　まずは、11 月末にケヤキロードギャラリーの彫刻清掃体験を呼び掛けており、市民の方と一緒になって清掃をしたいと思っている。これから先、ケヤキロードギャラリーなどの芸術に興味を持っていただき、解説していただける方がいれば市民の解説員としてやっていただきたいと考えている。協議会の皆様には、ぜひ力をお借りしたい。また歴史・文化・芸術の項目に分けて募集し、博物館で事前学習会を開催したうえ

で協力いただけるように考えていく。

（会　長）　市民学芸員制度を見直して、継続してやっていくということか。

（館　長）　はい。独自のものを作り上げていきたい。

（会　長）　郷土博物館には資料がたくさんあるが、資料がどこに何があるか知らない。収蔵庫のこの場所にこういう資料が保管されている、ということを協議会委員には教えていただきたい。

（館　長）　収蔵庫に集めている資料をこの工事期間を使ってなるべく整理をして、私どもも把握をしたうえで、早めに協議会の皆様に学芸員の説明の元、どこに何があるか解説したい。また将来的には保存している資料を web 上で公開できるようにして、何が保管されているか市民の方も見ていただき、活用可能なものについてはご活用いただきたいと思う。

（会　長）　その他ありますか。

（委　員）　２点あります。まず令和２年、３年につきましてはコロナの関係で博物館は目に見えない苦心があったのではないかと感じている。いろんなやりたいことはあるが、限りがあるので絞ってやってほしいという話を以前からしていたが、その中で一つに絞ってうちおりをやりましょうとなり、清瀬の歴史のコーナーが狭くなってしまうけども、うちおりから清瀬の歴史に入れることもあるので、私は良いと思う。国の指定文化財になるということはなかなかないと思うし、前の方々も含めての努力の賜物だと思うので大事にして進めていってほしい。自然関連がなくなってしまったということがあるが、あれもこれもというわけにはいかないので個人的には良いと思う。

　それとこの会合が年に１回だけである。これは何を意味するのか。一年に１回集まって計画と評価の話をしておしまいっていうのが本当に市民のものになっているのか。協議会の役目はいったいなんなのか。

（事務局）　自然関連が減ったのはご指摘通り。自然を語れる職員がいないというのが一つあるので、市民の皆様にご協力いただき、自然関係を扱っている近隣の施設との連携を図りながら清瀬でも出来ればよいと考えている。

（委　員）　自然関連が減ったのは仕方ないと理解している。うちおりの件があるのにあれもこれもというのは限りがある。

（館　長）　自然観察コースの看板を新しく作り直し、下の歩く部分にも木のチップを敷いて滑らないようにするなどハード面の改善もあり、入っていただける方が増えた。まずは博物館の周りの自然を見ていただける環境つ

くりはしていきたい。

（委　員）　この話に関連して感じているのは、いろんな植物が見られる施設がせっかくあるのだから裏庭の庭園の PR をもっとやったほうがいいのではないか。

（館　長）　SNS で発信をしている。今後も活用しながら、発信していきたい。

（会　長）　先ほどの年に１回の協議会開催の件で、前回にも話したが、必要があれば無償でも協議会委員は集まる。博物館の為に出来ることがあれば集まろうという話はしているので、改めて協議会の皆さんにはご了解をいただいた上で、その時に集まるためのテーマをいただければ集まると考えている。

（館　長）　ご提案に感謝する。収蔵庫の案内を今年度中にやれることになれば、お集まりいただくことになると思う。今後については、来年度の事業を決めるときに皆さんの意見を頂戴するということも必要だと思っているので、協議会の開催時期も考え直していきたい。

（会　長）　個人的には毎月会ってお話ししたいと思っているが、そういうわけにはいかないと思うので、相談したいときにお声がけしていただければ集まります。

（委　員）　予算が限られている中で最大限の効果を出そうとなったら、市民祭りのテントのブース一つを博物館にして、協議会メンバーが代わる代わる座って年間のスケジュールを紹介したり、昔の道具を紹介したりするコーナーで発信するのはどうか。SNS での発信も良いが、博物館に興味がある人はアナログ世代がほとんどで、SNS は効果的ではないので市民祭りなどで事業を展開したら良いのではないか。

（館　長）　市民の皆さんにどうやったら興味を持ってもらえるか考えていたが、非常に貴重な意見だと思う。会長には協議会の皆さんをもっと頼ってくれというお話をいただいていた。今まで博物館は、協議会の皆さんに意見を伺うことはあっても、頼ることがなかったと思う。今のお話のように市民祭りでテントを張り、協議会の方に入れ替わり立ち代わりその場にいていただくことという案が思いつかなかったので、ご協力いただけるのであれば、今後やっていきたい。

（副会長）　やはり PR が足りないと思ったが、今日の話の清瀬駅に横断幕を垂らすというのは、それでずいぶん目に付くのでまた違った集客になるのかなと思った。もう一つは博物館に入ったときに今年の行事はこういうこ

とをやりますというのは一覧表ではわかるが、文章だとなんだかわからないので、実際に体験出来る実物を一緒に展示してこの行事に参加したらこれが作れますなどの視覚に訴えるお知らせをするのはどうか。博物館裏の自然も SNS で発信するだけではなく、博物館内に掲示でお知らせして、今から行こうと思わせたほうが良いのではないか。

（館　長）　新たなスキルを持つ職員が加わったので、今まで気付かなかった点も工夫しながらやっていきたい。また、染物教室で学んだ技術で作ったバッグなどをグッズとして販売しているが、そういったところをもっとアピールしていきたい。

（会　長）　非公式にでも市民との話し合いの場のようなフランクに話しあえる機会を設けられると市民の方々のアイデアを取り入れできて良い。

（委　員）　市民祭りにしめ縄のブースがあって、そこでしめ縄を作ったら人が来てくれると思う。年間のこういう会議では、事業の概要のみを決め、具体的なことはボランティアで集まって決めたほうが盛り上がってくる。年に１回だとどうなっているのかよくわからない。

（副会長）　館の方が本当に一生懸命やられているのが市民に浸透していないのがもったいない。人力でなんとかできるものだったら、そういう風に使ってもらってやっていけばよい。

（会　長）　目的は２つあって、１つは学芸員の負担を減らすために協力しようということ。もう１つは PR などで協力できるところは協力するという２つの面があるので使い分けていただければいいと思う。

（会　長）　その他質問・意見ありますか。

（委　員）　ミュージアムシアターについて伺う。令和２年３年はコロナの影響もあったと思うが非常に少ない人数である。来年度の計画を見ると年８回やることになっているが、今一度検討したほうが良いのではないか。

（事務局）　おっしゃる通りで、16mm フィルムもなかなか生産されておらず、映写機自体も壊れたらおしまいというところがある。それに対応するべく DVD 上映もできる環境を整えた。ただ、DVD も著作権法の関係から上映権付の DVD を購入しないと上映が出来ない。館としても８回と計画しているが、なんのためのミュージアムシアターなのかということも練り直さなければいけないので、今後の検討材料にしたい。

（委　員）　前はたくさん入っていたと思うが。

（事務局）　やはりコロナというのがある。来られる方はリピーターの方がほとん

どを占めている。

（館　長）　図書館で勤務していたときに16ミリ映写機を回していたが、借用先である都の社会教育会館には、多くの16ミリフィルムがあって、例えば昭和 50 年代の東京の姿とかがあるので、中途半端に古いものではなくて、そういった貴重なフィルムを借りてご覧いただければと思う。他に代わるものがないかも含めて再検討していく。

（事務局）　映像展示室をどう活かすかということにもつながってくると思う。

（副会長）　小学校で歴史を勉強するときに昭和のころをイメージ化するのにも良いと思う。学校にもこの頃にこんな内容をやる予定なので来てくださいなどのPRもしていったほうが良い。

（事務局）　いまYouTubeに昭和30年代40年代の広報の映像が流れているのでそういった事業で活用出来る。

（館　長）　昔の清瀬を写した動画は、大変多くの方々に見ていただいているので、そういったものを活用していきたい。

（副会長）　校長会とかに話に行けば子どもたちに浸透していくのではないか。

（事務局）　校長会は今まで何度もチャレンジしているが難しい。教育長から各学校に、校内放送で呼びかけるように依頼した効果はあった。もう少し子どもたちに確実に届く何かが出来ればよいと思っているので、教育委員会との協力も含めて調整していきたい。

（副会長）　特別展のチラシに日にちのみで年号が書いていないチラシがあるのはなぜか。手にしたときに2年前にこういうのがあったというようなことが知りたい。

（事務局）　振り返ってみるときはそうなるが、基本的にチラシは消耗品という考えで、その時に周知するために撒くものと考えていた。周知のために配るものなので一般の方には年度は関係ないと思い、あえて入れていなかった。反映させるようにする。

（副会長）　うちおりについて、清瀬に根付いているものなので、子どもたちに活動させる機会を作りたい。例えば、うちおりでも染物をするのに藍染を種蒔きからして刈ってといった流れを体験させたい。

（事務局）　以前やっていたが、職員が常に手入れをしなければいけない等の条件が厳しく、うまくいかなかった。もしその機会を得られるのであれば、講師や市民の方の協力もいただきたいと思う。

（館　長）　昔の人の暮らしを体験してもらうというのは素晴らしいことだと思う。

うちおりを展示して、これがどうやって出来上がってきたかなどの過程について学んでもらうために、講師の方や実際に藍を染めていらっしゃる方にご協力をいただきながら検討していきたい。

（副会長）　夏休みの宿題にやってみようという事業があれば、少しは違うのかなと思う。先ほどの古代の話だと勾玉作りとか昔の道具を作るなど、夏休みを兼ねてやれば普段よりも少しは入館数が増えると思う。

（館　長）今　回の土器の発掘体験をやって、かなり好評だったので体験型の教室も今後企画していきたい。

7　閉会

（会　長）　以上で本日予定していた議事についてはすべて終了する。これをもって本日の博物館協議会を閉会する。